

令和2年度静岡市協働パイロット事業 企画提案書

団体名：あそびのひろば事務局

1 事業のタイトル

小中学生のための、居場所マップ作り

2 事業の概要 (市民ニーズや協働で取り組む意義を踏まえて記載してください。)

市民ニーズ

静岡市葵区古庄の多目的スペース、「ひかり市民センター」と共同で、週一回、不登校の子供たちの為の居場所を運営しています。※添付のチラシ参照

利用者は、不登校児童を受け入れている、様々な居場所を回った経験を持つ方が多く居ます。みなさま、静岡市の適応指導教室以外の民間団体や個人運営のものは、大抵口コミや人づてで、情報を得ていました。市営のものから民間団体、個人運営のものまで網羅した、居場所マップが欲しいと、多くの方の声があり、今回の提案となりました。

事業の概要

小中学生のための、学校以外の居場所を網羅した、マップ作りをします。

令和3年1月までを目途に、不登校の子供たちや保護者の方が手にすることのできる、A3二つ折りで連絡先や写真の載った居場所一覧資料を作成し、関係各所に配布します。

協働の意義

子供たちや保護者にとって、市営、民営、個人経営はあとからついてくる情報です。大切なのは、多くの場所があるという安心感、選択できる安心感です。

協働することで、情報を共有し、市民ニーズに合った連携が取れることと考えます。

3 協働して事業を行う際、貴団体の担う役割と静岡市に担って欲しい役割

私たちは、横のつながりを利用した情報収集など、マップ作成業務全般を担当します。

静岡市に期待する役割

情報収集の際、市の運営、把握する情報提供、学校関係者に配布する際のルート確保など。

4 事業計画・実施スケジュール

具体的内容

小中学生のための、学校以外の居場所を網羅した、A3両面マップ作り

対象

主に、義務教育期間中の、不登校の子供とその保護者、
またそれだけでなく普段学校に通っている子供達やその保護者。

目的

不登校や有事など、いかなる状況にあっても、子供たちの心の平穏、
必要とされたときは学習機会の提供。居場所情報の提供。

マップ掲載内容と情報収集方法。

住所連絡先などの基本情報の他、写真や主催者の情報などを記載します。
現在運営している事業所とその利用者に、情報提供の協力要請をします。
居場所一箇所ごと、電話と訪問による確認を行います。

よくある質問；掲載するかどうかの判断は？

例えば、個人の住居を居場所として開放している方が居て、何かあった時の責任を誰が取るか？という問題があります。私たちは、必ず直接お会いして情報確認をします。そこで問題ありと思われる方、団体の掲載はしません。特定の思想を持った団体も掲載を控えます。
そのうえで、あくまで情報提供を目的とした一覧作成だとうたいます。そこに電話するか、実際使うかは個人の判断になります。なぜなら、合う、合わないは私たちが思う以上に幅広く、たった一人を救う居場所であっても、掲載する意義は十分にあると考えるからです。
問い合わせ先は私たちが窓口になります。

マップの仕様、枚数

A3、表面カラー、裏面モノクロ

印刷枚数、3500枚

(市内小学校87箇所、中学校43箇所、役所、図書館、教育文化施設など約100箇所

各箇所10枚×230箇所=2300枚

マップに掲載されている居場所各所、推定計100箇所×各10枚=1000枚

プラス予備200枚)

※市内の小中学生の人数、約50000人

6月～8月

居場所の情報収集

行政が把握している情報をまとめる

↓

現在運営している事業所とその利用者に、情報提供の協力要請

“あたらしい学校”“家民古”など多くの団体から、協力の確約済み

9月～11月

マップ作り

11月

発注

12月

配布

令和3年1月より利用開始

令和3年春頃、情報追加、更新。

その後は一年に一回、春に情報更新。

5 実施体制及び主要スタッフの経歴

企画、制作

代表 鈴木綾子 広告会社勤務後、通信制大学教育学部在籍、Solana Design works 代表。
二児の母。Solana Design works 付帯事業として
“あそびのひろば”を2019年4月から運営。

補助 原大介 静岡高校卒、琉球大学中退、2019年4月から、静岡市葵区古庄にある
多目的スペース“ひかり市民センター”運営。

情報収集のために協力要請予定箇所

あたらしい小学校

ふわり

カミンコ（由比蒲原地区）

他 10 か所程度

マップ作製デザイン

Solana design works

6 特にアピールしたいこと（専門性、独自性、先駆性、実績、2年間継続することの効果など）

実績、専門性

私たちは、子供や保護者と直接関わる活動をしています。また、横のつながりで同じような居場所作りの取り組みをしている方々も多く知っています。草の根、民間だからこそできる情報網を、ぜひ今後の市政に活かしてほしいと思います。

独自性、先駆性

やはり、行政の関わる居場所と、民間の運営する居場所とが、一度に見られる資料というのは、今までなかったと思われます。

継続の効果

私たちが情報を集めきれない取り組み、自分のところも載せてほしいという問い合わせ、きっと出てくると思われます。そのため、初年度の更新を半年以内に行います。その後は、年に一度、最新の情報に更新します。継続してこそその効果だと思われます。

さいごに

適応指導教室にも行けない子供の居る家族に対する世間の目は、やはり厳しいのが現状です。

行政と民間が協働することで、学校に行かない子はダメな子という風潮を

改革できるチャンスだと思います。

親子に沢山の選択肢を示すことが、まずは希望に繋がります。

そして、マップの存在そのものが、子供たちへの力強い自己肯定のメッセージになると思います。